

# 港湾振興便り



2024. 3

第202号

\* : \* :

## 目 次

\* : \* :

1 ポートエッセイ — まちづくりの転換期を迎えて —  
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

## 2 トピック

- 首都直下地震を想定した管理運営訓練及びヘリコプター夜間離着陸訓練を実施しました  
(関東地方整備局 港湾空港部 首都圏臨海防災センター)
- 能登半島地震で被災した漁船だまりの啓開作業  
(北陸地方整備局 港湾空港部)
- 第18回海の再生全国会議in大阪を開催しました！  
(近畿地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)
- 大阪の港まちを未来へつなぐ港まちづくりセミナー  
(近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所)

\*:

# 1 ポートエッセイ — まちづくりの転換期を迎えて —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

\*:

新潟県最大のターミナル駅である新潟駅は現在60年ぶりの大規模リニューアルが行われている。既に整備が進められていた全面高架化は完了し、昨年3月には高架下の歩道が開通、今月末には駅直下のこの通路に新しい「新潟駅バスターミナル」が開業、高架下をバスが通り抜ける。新潟駅を挟んで南北の市街地が一体化するとともに、バス乗り場が駅下となり鉄道からバスへの乗換えもスムーズになる。4月には駅ナカに170店舗が集まる商業施設が誕生する。また、現在駅前広場の整備を進めており、2025年の完成を目指している。

新潟市は今まちづくりの大きな転換期を迎えている。

新潟駅が大きく変わろうとしている今、その新潟駅から賑わいの万代地区、みなとのある万代島地区、歴史ある古町地区をつなぐ都心軸は、ほぼ2キロメートル。新潟市は、この都心軸周辺エリアを市民に新潟のまちづくりをもっと身近に感じていただき、ワクワク感や期待感につなげていきたいという想いから、「にいがた2km(ニキロ)」と名付けた。みなとまち新潟の信濃川と萬代橋から広がる「都心エリア」において高次都市機能の集積や魅力の創出、賑わいづくりを市民と一体となって取り組み、人・モノ・情報が行き交う活力あるエリアを創造すべく取り組んでいる。

その取り組みの一つに都心軸の活性化を目的として成長産業である情報通信関連企業に対して立地を支援する制度を設ける等積極的な企業誘致を進めた。結果、当該中心エリアへの企業進出が続々と決まっている。

このように戦略的な企業誘致の推進による企業進出であらたなビジネスが生まれ、波及していくことに期待する。

企業進出は魅力的な雇用を生み出し、若年層をはじめとした幅広い年代のU・I・Jターンの増加につながっていく。近時において最も深刻な人口減少抑制の施策としても有効である。これからも官民一体となり積極的に展開していきたい。

\*:

## 2 トピック

\*:

- 首都直下地震を想定した管理運営訓練及びヘリコプター夜間離着陸訓練を実施しました  
(関東地方整備局 港湾空港部 首都圏臨海防災センター)

令和6年2月14日(水)、川崎港東扇島地区基幹的広域防災拠点(以下、「東扇島防災拠点」)において、首都直下地震を想定した管理運営訓練及びヘリコプター夜間離着陸訓練を実施しました。

本訓練は、首都直下地震など大規模災害が発生した場合に、緊急物資の輸送拠点並びに広域支援部隊の活動拠点となる東扇島防災拠点の応急復旧及び緊急物資輸送活動体制の構築にかかる必要な情報の収集・伝達方法の検証、緊急物資の輸送に重要な役割を果たす各関係機関のヘリコプターの災害対応能力向上を目的に例年実施しているもので、今回は7機関等が参加し訓練を実施しました。

今回の訓練では、平常時において東扇島東公園として管理する川崎市から、発災により国の直轄管理へ移行して関係機関との情報共有や要請等を行う管理運営訓練、ヘリコプターによる活動要員参集訓練、航空灯火・臨時駐機スポットの設置訓練、そして川崎市消防局の運航統制にかかる協力のもと、海上自衛隊のヘリコプターが夜間の離着陸訓練を行いました。

ヘリコプター夜間離着陸にかかる各実動訓練はもとより、机上での管理運営訓練においても演習形式で行い、今回の訓練を通じて関係機関との連携を強化することができました。



管理運営訓練の様子



ヘリコプター夜間離着陸の様子

## ●能登半島地震で被災した漁船だまりの啓開作業

(北陸地方整備局 港湾空港部)

令和6年1月1日(月)16時10分、最大震度7を観測した令和6年能登半島地震が発生し、管内の29港湾のうち22港湾で被災しました。当局では港湾管理の権限代行を受け、地震によって船の往来ができなくなった輪島港および飯田港で漁船だまりの啓開作業を実施しています。

2月16日(金)、輪島港では日本埋立浚渫協会および石川県港湾漁港建設協会の協力のもと、被災した漁船の移動や陸揚げするために必要な水深を確保する浚渫作業に着手しました。

2月27日(火)からは、飯田港で日本埋立浚渫協会および新潟県港湾空港建設協会の協力により、被災し転覆等した漁船約15隻の引揚げ及び移動作業を行っています。

引き続き、早期の復旧・復興に向けて取り組んでまいります。



浚渫作業の様子（輪島港）



引揚げ作業の様子（飯田港）

●第18回海の再生全国会議in大阪を開催しました！

(近畿地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

令和6年2月19日(月)「海の再生全国会議」をオービックホール(大阪府大阪市)にて開催し、約200名の方にご参加いただきました。本会議は、四大湾(東京湾、伊勢湾、大阪湾、広島湾)の海の再生プロジェクトの成果や課題、教訓などを基に、全国の閉鎖性水域の再生プロジェクトに展開させるとともに、全国の海の環境再生につながる取組の情報共有・情報発信を行うことを目的としています。

第18回目となる本会議は「大阪湾再生の今、そしてこれから～湾再生を支える将来世代の育成を着実に進めるために必要なこと～」をテーマに開催、基調講演、話題提供及びパネルディスカッションを通じ、全国の海の環境再生を支える将来世代の育成について考える場となりました。

また、当日は「第1回全国海の再生・ブルーインフラ賞 授賞式」(主催:一般財団法人みなと総合研究財団)も同時開催されました。



国土交通大臣賞 授与

(第1回全国海の再生・ブルーインフラ賞 授賞式)



会場全景

(第18回海の再生全国会議in大阪)



基調講演(大阪公立大学大学院 教授 重松 氏)

(第18回海の再生全国会議in大阪)



パネルディスカッション

(第18回海の再生全国会議in大阪)

